



# 九州歯科大学 図書館だより NO.95

新生活にも慣れ、勉強に励んでいることと思います。もう図書館には立ち寄り  
ましたか？最近では専門書はもちろん、一般書も充実してきています。豊かな  
人間性と幅広い教養を備えた歯科医療人として社会で活躍するためにも、  
図書館を大いに利用し、読書に励んでください。

図書館運営部会 古株彰一郎



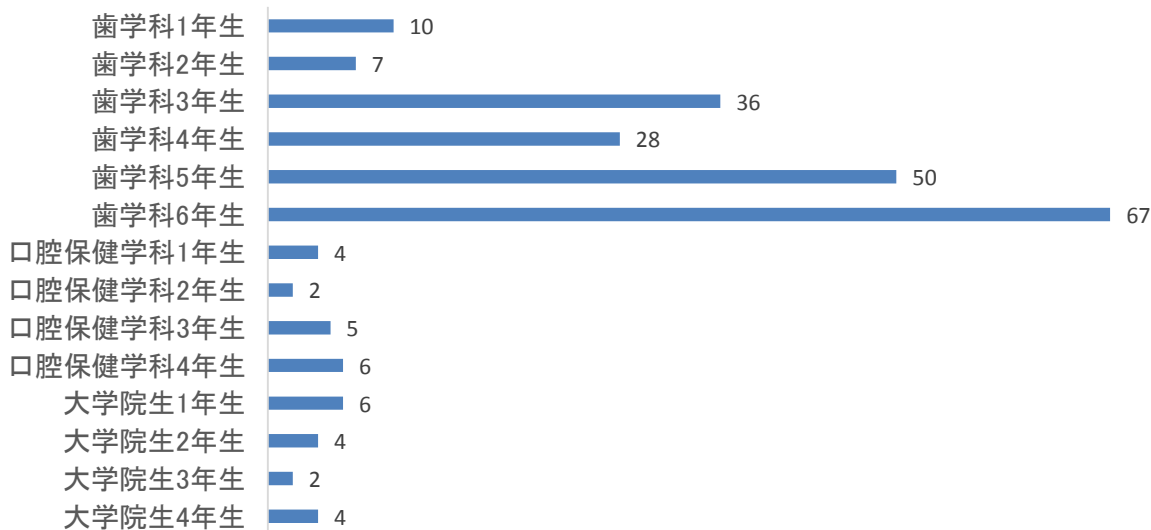
## 貸出ランキング

2018.4



- |     |  |
|-----|--|
| 1位  | 口腔外科学 第3版, 白砂兼光, 古郷幹彦編   |
| 2位  | 保存修復学 第5版, 平井義人編集代表/平井義人 [ほか] 執筆                                 |
| 3位  | 歯内治療学 第3版, 戸田忠夫 [ほか] 編/戸田忠夫 [ほか] 執筆                              |
| 4位  | 公衆衛生がみえる 2016-2017 第2版, 医療情報科学研究所編                               |
| 5位  | コア歯科理工学, 小倉英夫, 高橋英和, 宮崎隆, 小田豊, 榎本貢三, 小園凱夫編/遠藤一彦 [ほか] 執筆          |
| 6位  | 歯科麻酔学 第6版, 古屋英毅 [ほか] 編集  |
| 7位  | ザ・ペリオドントロジー, 和泉雄一 [ほか] 編著  |
| 8位  | 歯科矯正学 第5版, 相馬邦道 [ほか] 編集/相馬邦道 [ほか] 執筆                             |
| 9位  | 呼吸器 第2版 (病気がみえる.v. 4), 医療情報科学研究所編                                |
| 10位 | 歯科医師・歯科衛生士ができる舌診のすすめ! : 患者さんの全身状態を知るために (日本歯科評論:別冊:2010), 柿木保明編著 |

## 貸出冊数(4月)



# 新着図書を紹介

タイトル	著者名	出版者
インド哲学10講	赤松明彦著	岩波書店
ライシテから読む現代フランス：政治と宗教のいま	伊達聖伸著	岩波書店
マーティン・ルーサー・キング：非暴力の闘士)	黒崎真著	岩波書店
イラスト読図：地図読みは最強のリスク回避	阿部亮樹著	東京新聞
セルフレスキュー（ヤマケイ・テクニカルブック登山技術全書:11)	渡邊輝男著	山と溪谷社
山のリスクと向き合うために：登山におけるリスクマネジメントの理論と実践	村越真、長岡健一著	東京新聞
山で正しく道に迷う本（B&Tブックス)	昆正和著	日刊工業新聞社
山で正しく道に迷う絵本：“まさか!”の原因は山ではなく、“心”が作りだす（B&Tブックス)	昆正和著	日刊工業新聞社
北海道の山 改訂版（新・分県登山ガイド:0)	伊藤健次著	山と溪谷社
まんがと図解でわかる統計学	向後千春監修	宝島社
さわらぬ神に祟りなし殺人事件（DS刑事）	七尾与史著	幻冬舎
偶然屋	七尾与史著	小学館
表参道・リドルデンタルクリニック	七尾与史著	実業之日本社
すずらん通りベルサイユ書房	七尾与史著	光文社
忌女板小町殺人	七尾与史著	新潮社
凸撃忌女即身仏	七尾与史著	新潮社
死亡フラグが立ちました!	七尾与史著	宝島社
死亡フラグが立ちました!：カレーde人類滅亡!?殺人事件	七尾与史著	宝島社
僕はもう憑かれたよ	七尾与史著	宝島社
僕は沈没ホテルで殺される	七尾与史著	宝島社
神隠しと消えた殺意の謎	七尾与史著	幻冬舎
トイプー警察犬メグレ	七尾与史著	講談社
ヴィヴィアンの読書会	七尾与史著	講談社
ティファニーで昼食を：ランチ刑事の事件簿	七尾与史著	PHP研究所
歯科女探偵	七尾与史著	角川春樹事務所
ルボ保育格差	七尾与史著	実業之日本社
データサイエンス入門	小林美希著	岩波書店
声優：声の職人	竹村彰通著	岩波書店
後醍醐天皇	森川智之著	岩波書店
五日市憲法	兵藤裕己著	岩波書店
	新井勝紘著	岩波書店



## 第7回選書ツアー紹介本

『虐殺器官』 伊藤 計劃

SFと聞いて何を思い浮かべるだろう？空飛ぶ車？人間の代わりに働くロボット？この本にはどちらも出てこないけれど、代わりに私達の現実と地続きの、残酷で容赦のない暴力の世界と、反して高度に発達した情報管理社会の平穏が描かれている。そのディテールは空想科学なんて牧歌的な言葉の範疇には収まらない。この本が上梓されたのは10年前最先端の技術はどんどん更新され、移ろっていく物だけれど、この本に描かれる社会の説得力と真に迫るリアルさは全く損なわれていない。というのも、「第三世界と呼ばれる国々と、平和で、便利な生活を享受する先進国」という構図は、私達の親が生まれる前から今もって変わらないからである。暴力や死から遠い世界で育った主人公の視点で進む物語は、虐殺が横行する戦場を語るにはあまりにナイーブだ。文学的ですからあるのに、突きつけられる残酷な確かな重みと質感を伴っている。このギャップを是非堪能して欲しい。虐殺器官、面白いよ。



『単純な脳、複雑な「私」』 池谷 裕二



本書では脳科学の最新の研究成果や最先端の発見などを踏まえて、著者の池谷裕二とその母校の生徒たちが人生や恋愛など様々なテーマについてぎっくばらんな議論をしています。4年前に初刊本して刊行されたものですが、ブルーバックスの本書でも『今回のこの本は、私が出してきてすべての本の中で、いま一番思い入れがあって、そして、一番好きな本であることを、正直に告白したいと思います』と書いてしまうほどの仕上がりようです。池谷ファン、ならびに脳科学に興味があれば読まずにはいられないでしょう(笑)。脳科学について深く知らない人にも、充分面白く読める内容だと思うのでオススメです。